

(参考資料)

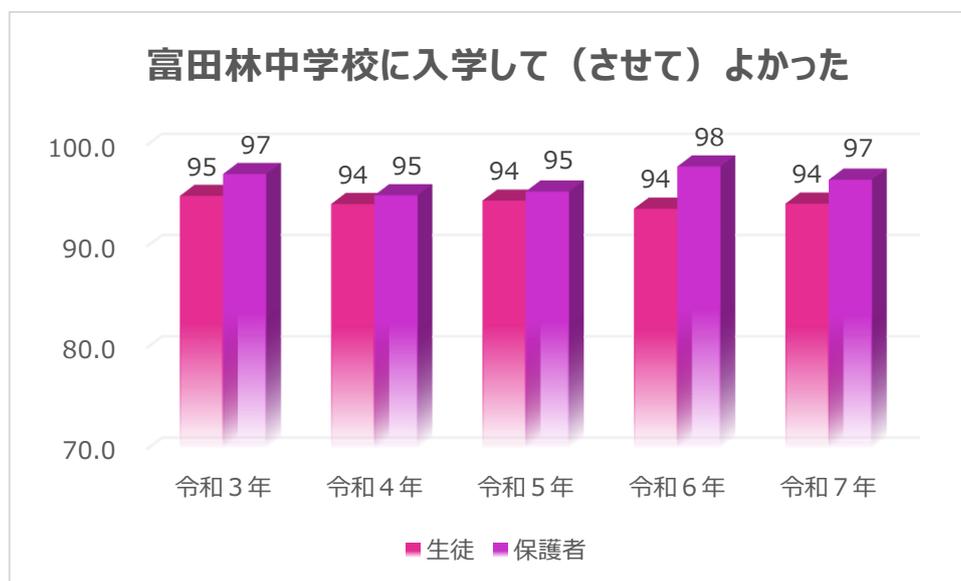
令和7年度 富田林中学校 学校教育自己診断結果について

✚開校9年め、生徒・保護者からの高い学校満足度を維持

令和7年度の学校教育自己診断においても、学校に対する肯定的評価は高い水準を保っており、「富田林中学校へ入学してよかった」と回答した生徒は94%、保護者の97%が「富田林中学校で学ばせることができよかった」と評価しております。

特に、教職員と生徒との良好な関係性や学校行事への満足度が高く、富田林高等学校の生徒との連携や、学年・学級を越えて互いを支え合う校内の雰囲気、本校における「学校満足度の土台」として機能していることが読み取れます。一方で、「学校給食に満足している」といった項目については評価が低調である結果となりました。給食につきましては、デリバリー方式である現状を踏まえ、事業者ならびに関係課へ現状報告を行うとともに、情報を共有しております。

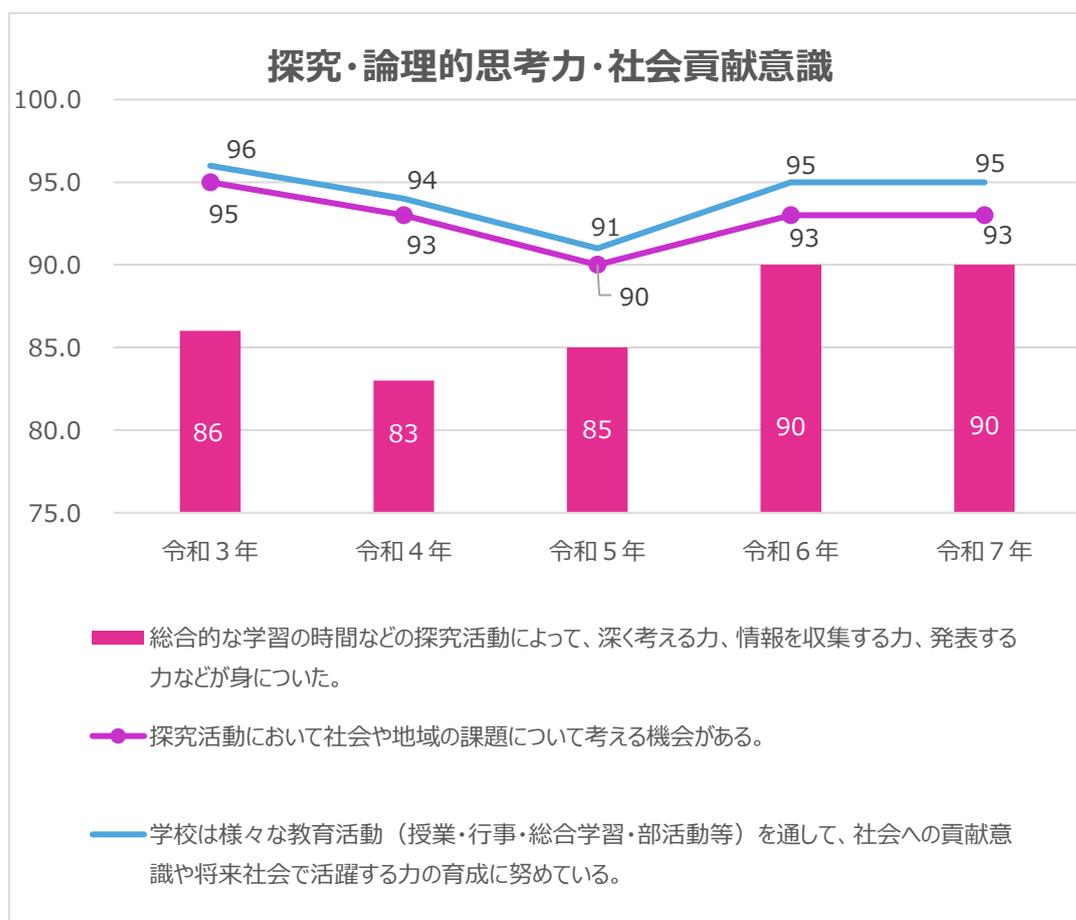
今後も、生徒・保護者の声を丁寧に受け止めながら、学校教育の質の向上と、さらなる学校満足度の向上をめざしてまいります。



探究（コミュニティスクール×SSH）の学びを地域に発信

本校がめざす「地球的視野を持って未知の課題に挑み、地域や社会に貢献するグローバル・リーダー」の育成に向け、今年度も探究学習を学校の中核に据えて推進しました。中学段階では、自然科学領域の『富中サイエンスⅠ～Ⅲ』により実験・考察・分析・発表のプロセスを段階的に経験させ、併せて『社会探究 Basic』等で SDGs や企業・地域の課題を題材に、課題発見から解決提案までを学ぶ仕組みを整えています。また、コミュニティ・スクールとして、外部人材や地域・企業等との協働を通じて『社会に開かれた教育課程』を具体化しました。

自己診断の結果では、探究に関する肯定的評価が高く、「探究活動によって深く考える力・情報を収集する力・発表する力等が身についた」90%、「探究活動において社会や地域の課題について考える機会がある」93%、「学校は様々な教育活動を通して、社会への貢献意識や将来社会で活躍する力の育成に努めている」95%となりました。次年度も、成果発表の場（例：文化祭（富中サイエンス）、ゼミ別発表会、地域フォーラム等）を活用しながら、生徒の学びの成長をより見える形で発信していきます。



✚ グローバル教育は『体験＋オンライン』で系統化—国連/SDGs→JICA→交流・発信へ

グローバル教育については、中学3年間を通じた系統性を軸に、体験的学習とICT・オンラインを組み合わせて推進しました。中学1年は国連・SDGs学習、中学2年はJICA学習、中学3年はグアム事前学習といった『富田林中学校グローバルプログラム』を基盤に、学年が上がるにつれて「知る→考える→伝える→つながる」へと学びを発展させています。加えて、朝のMET（モーニンググリッシュタイム）年間8回程度のオンライン英会話等、日常的に英語で発信・対話する機会を確保しました。

自己診断の結果では、「グローバル教育・コミュニケーション力」に関する肯定的評価が、生徒96%・保護者98%と高い結果となりました。

次年度以降は、交流先の多様化や、授業内外でのスピーキング評価の充実を図り、『世界と協働できるコミュニケーション力』を一層伸ばしていきます。

